SPECIAL

循環器センター

理事
循環器センター長
加藤　法喜

院内連携と地域医療連携で循環器疾患の切れ目のない医療

2011年4月1日、循環器内科―心臓血管外科の院内連携をより強化するとともに、循環器疾患の地域医療連携をさらに推進するために循環器センターが開設されました。

院内連携の強化

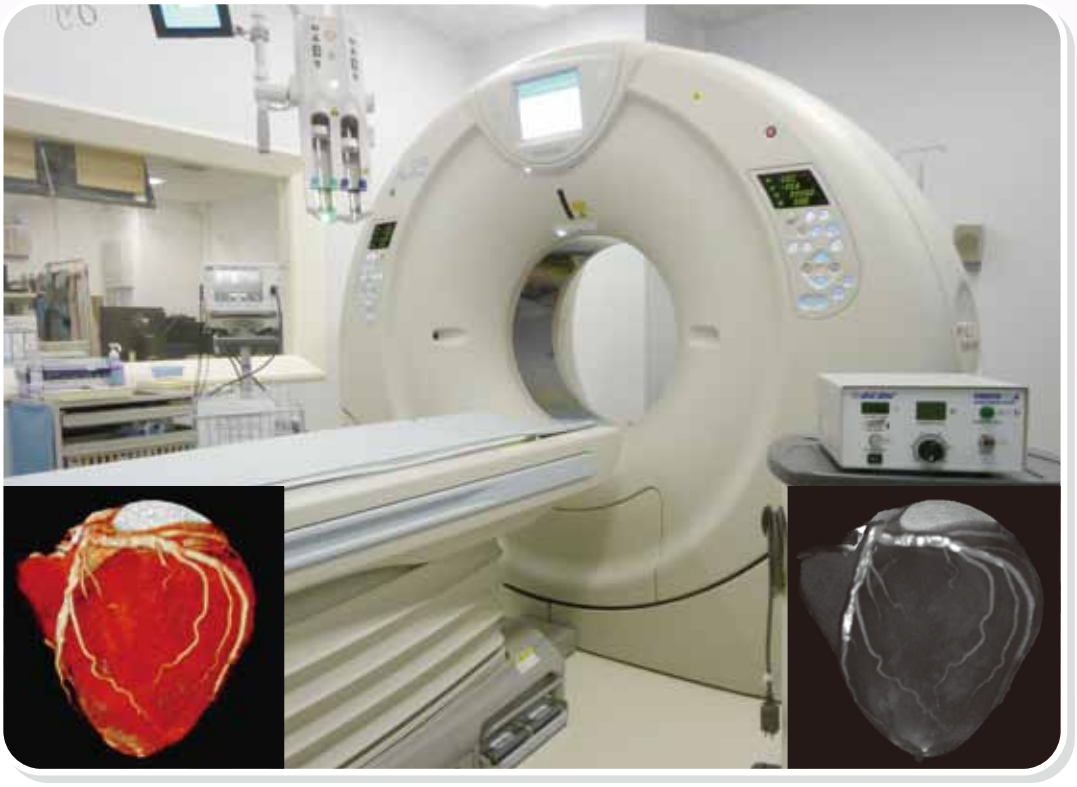
循環器内科と心臓血管外科は以前より合同カンファレンスなどを通じて積極的に院内連携に取り組み、高度医療に十分対応できる体制を維持・発展させることを目指してきました。平成21年度にスタートした当院の経営計画である「新パワーアッププラン」に基づいた病棟病床再編が策定される中、より一体感を持って循環器疾患の診療に当たるために、平成23年4月1日に循環器センターを開設しました。コメディカルとともに患者さんの利益を第一にした安全で質の高いチーム医療をさらに強化していきます。

地域医療連携の推進

当院は地域完結型医療を担う中核的な急性期総合病院として、地域医療連携を病院運営の大きな柱に据えて取り組んでおります。循環器内科は平成17年に地域の医療機関との「顔の見える連携」を目的に循環器内科談話会を設立しましたが、センター発足を機に循環器内科談話会を循環器センター談話会に改組、発展させるべく計画中です。内科・外科の垣根を越えた切れ目のない循環器診療を地域の先生方と共にこれまで以上に推進していきたいと考えています。

紹介率と逆紹介率

平成22年度の紹介率は循環器内科52.1%（平成23年度上半期64.4%）、心臓血管外科45.5%（同62.0%）で、逆紹介率は循環器内科64.8%（同71.0%）、心臓血管外科66.7%（同109.8%）でした。



320列CT

センターの新たな目玉

循環器センターは従来の施設とシネアンギオ（２台）などの主な設備をそのまま踏襲してスタートしていますが、大きな目玉が２つあります。１つ目が11月１日に本格稼働した320列CTで、２つ目が平成25年度に予定しているシネアンギオ室のハイブリッド手術室への改装（予定）です。

320列CT

世界で唯一の320列CTである東芝Aquilion ONEは、テーブルを移動させることなく１回転するだけで継ぎ目のない16cm幅の撮像を可能にしました。解像度に優れた心臓（冠動脈）ＣＴが僅か1秒以内の撮影時間で完了するために、従来のMDCTに比し被ばく線量を約半分に、造影剤使用量も従来の６～７割程度に低減できました。また、不整脈があっても撮影が可能となり、息止め時間も数秒で済みます。是非とも多くの先生方にご利用いただきたく「地域連携枠」も設定しました。地域医療室または地域連携センターを通じて検査予約ができます。

ハイブリッド手術室

大動脈瘤のステント内挿術などの血管内外科治療をより安全に、より確実に、そして更なる高度医療に対応してくために、平成25年度に４階シネアンギオ室をハイブリッド手術室に改装し、シネアンギオ装置を手術対応機種に更新する計画が進行中です。

内シャントセンター（心臓血管外科）

新規・再内シャント作製は手術室で行いますが、内シャント修復（ＰＴＡを含む）はハイブリッド手術室で行うことになります。（シャント関連手術総数は過去５年間で1,449例）

医師スタッフ

最後に循環器センターの医師をご紹介させていただきます（平成23年12月１日現在）。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

循環器内科医師

加藤法喜（循環器センター長・理事・部長、日本内科学会認定医・指導医、日本循環器学会専門医、日本心不全学会評議員）、福田洋之（副部長、日本内科学会認定医）、牧野隆雄（副医長、日本内科学会認定医、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会専門医）、相馬孝光（副医長、日本内科学会認定医、日本循環器学会専門医）、岩切直樹（副医長）、檀浦裕（日本内科学会認定医）、村井大輔、浅川響子（日本内科学会認定医）、相川忠夫

心臓血管外科医師

渡辺祝安（部長、日本外科学会認定医、日本胸部外科学会指導医・評議員、心臓血管外科専門医）、中村雅則（副部長、日本外科学会専門医・指導医、日本胸部外科学会指導医、心臓血管外科専門医）、黒田陽介（日本外科学会専門医、ステントグラフト実施医・指導医）、中島智博（日本外科学会認定医）

心臓カテーテル検査

心臓手術

循環器センター医師・看護師長・コメディカル